

大府市総合計画審議会全体会（令和元年度第1回）要点記録

日 時 令和元年 6 月 17 日（月）

13:30～

場 所 大府市役所 5 階 全員協議会室

出席委員

会 長	名古屋市立大学	三浦 哲司
委 員	大府市社会福祉協議会	大山 尚雄
	大府市体育協会	梶谷 修
	大府市区長会	菊池 勇人
	大府市医師団	児玉 真澄
	大府市教育委員会	竹中 万里
	大府市文化協会	舘内 三郎
	大府市コミュニティ連絡協議会	山崎 千晶
	大府市国際交流協会	山田 恵子
	ボランティア団体（ふるさとガイドおおぶ）	加藤 明美
	大府商工会議所	深谷 洋二
	公募	三浦 太資
	東海大府交通安全協会	三好 直人

（欠席）

副会長	工学院大学	遠藤 新
委 員	あいち知多農業協同組合	稲葉 きみ子
	連合愛知知多地域協議会	近藤 伸一

行政

副市長	山内 健次
教育長	宮島 年夫
健康都市推進局長	吉兼 智人
総務部長	久野 幸信
市民協働部長	丸山 青朗
福祉子ども部長	鈴置 繁雄
健康文化部長	今村 昌彦
都市整備部長	玉村 雅幸
建設部長	長谷川 重仁
産業振興部長	寺島 晴彦
水道部長	杉山 鐘辞
教育部長	木學 貞夫
議会事務局長	相木 直人
消防長	上山 治人
高齢障がい支援課長	近藤 恭史
環境課長	猪飼 健祐
建設管理課長	小田原 幸生

都市計画課長
保育課長
秘書人事課長

深谷 一紀
内藤 尚美
白濱 久

事務局

企画政策部長
企画政策課長
企画政策課企画係長
企画政策課企画係主任
企画政策課企画係主事

新美 光良
福島 智宏
川出 陽一
鈴木 康幸
青木 大

(合計 38 名、敬称略)

傍聴人 : 1 人

【議事】

(1) 各部会における審議内容の報告

(事務局)

資料について説明。

(会長)

ただいまの説明について、ご意見はいかがか。

(委員)

序論及び基本構想の 20 ページの政策目標 1 で、ソフト面が足りないの
で追加という発言だったが、この文章で何かますます混乱してしまった。

(会長)

経緯としては、ハード面という言葉が前回に出ていたので、バランスで
ソフト面というところを入れていただいた。今回の文面を改めて見てみる
と、流れがどうかとご発言をいただいた。ほかの方からも意見をいただき
たい。

(事務局)

確かに少し読みにくいですが、趣旨としては、心身のバランスがとれた健康
的な生活を送ることができるように、ソフト面では本市独自の魅力ある取
組を推進するとともに、健康づくりにつながるハード面での環境整備も進
め、ソフトとハードで分野横断的に進めるという感じである。

(委員)

「ソフト面では」と来たら「ハード面では」となる気がする。例えば、
「健康的な生活を送ることができるように、ソフト面では云々、ハード面
では云々を実感できるまちづくりを進めます」というように。

(事務局)

わかりやすくなるよう修正させていただく。

(委員)

結局は文が長過ぎるからわかりにくい。最初に「多くの市民が健康づく

り・スポーツ・文化活動などに取り組み、心身のバランスがとれた健康的な生活を送ることができるよう、「健康都市おおぶ」を実感できるまちづくりを進めます。」と先に書き、「ソフト面では本市独自の魅力ある取組を推進するとともに、ハード面では健康づくりにつながる環境整備を進めます。」という形にすれば、分野横断的にという分かりにくい難しい言葉を使わずにも提示できる。

(委員)

もう少し具体的にイメージがわくような文章になるとわかりやすくなる。

(会長)

ポイントは2つある。文が長いのでできる限り、切るというのがまず1つ。2つ目は、言い回しで何かイメージできるような表現の工夫があればなお良いということ。これを踏まえて改めて事務局で検討してほしい。

(委員)

まとめの中の8ページの4番。目標値を0にしてしまうと厳しいという話があって修正目標値を過去最低の0.2%、2.4%としているが、やはり0に近い目標の方が真剣に取り組むイメージがあるので、過去最低を目標にするよりも良い。最初の0と掲げた意思が薄れている感じがするので考慮願いたい。

(会長)

このあたりは前回の部会での議論もあるので、そのあたりも含めて事務局から説明いただければと思う。

(事務局)

趣旨としては、0%にしてしまうと非常に強過ぎるメッセージになってしまうため、実態に近い目標設定として、教育委員会とも相談し、小学校0.2%、中学校2.4%にした。これは過去20年間で最も低い値であり、学校評価の目標値ともリンクしてくる。

(2) パブリックコメント案について

(事務局)

資料について説明。

(会長)

ただいまの説明について、ご意見、ご質問をお願いしたい。

(委員)

大府市として、このSDGsの中の何に中心を置くかをはっきり明示した方が言葉だけで終わらない気がする。例えば、一覧表では「3.保健」「9.イノベーション」「11.都市」の項目が多い。大府市としては、すべての人の健康と福祉からだが、産業と技術革新の基盤をつくる「9.イノベーション」、住み続けられるまちづくりで「11.都市」が、大府市の目標に合っていると感じた。それに加えるなら、例えば「4.教育」「6.水・衛生」であ

る。17 の目標の中で、質の高い教育、安全な水とトイレを世界中に、というようなことを健康都市おおぶとして特に掲げると良い。

(会長)

これからは、「あれもこれも」というより「あれかこれか」で、メリハリをつけることが重要なポイントである。SDGs の 17 ゴールの中で、「3. 保健」「9. イノベーション」「11. 都市」は確かに多い。事務局でお考えがあればお願いしたい。

(事務局)

SDGs については、まちづくり懇話会や行政職員による分野別計画の検討で、169 のターゲットに照合して関係する部分を一覧表に掲載している。確かに多い項目もあり、わかりやすく明示することは考えられるが、特出ししてどうにかするなどまでは今回は考えていない。

(会長)

新しい総合計画の中で実現を目指すというよりは、大府市総合計画の取組をすることで、結果として SDGs に結びつけていくような関係だったと思う。一方で、SDGs を大府市の中でどう浸透させていくか、総合計画と同時並行なのか別なのかはわからないが、何か工夫が必要である。

(委員)

「サステイナブル」という言葉の説明をして、わかりやすくしたと話があったが、どこにあるのか。「サステイナブル」の言葉の意味について記載があれば、もう少しこの言葉が身近に感じられるようになる。

(事務局)

序論及び基本構想の 19 ページに将来都市像がある。ここで「いつまでも住み続けたい サステイナブル健康都市おおぶ」を先ほど説明させていただいた。今後、もう少し詳しい解説も含めて整理したい。

ただ、今回の「サステイナブル」の意味は、「持続可能」という意味もあるが、大府市では、SDGs を今回の第 6 次総合計画から新たに盛り入れていくため、その概念である「サステイナブル」を市民とも共有していきたいので、そのあたりの説明を付け加えていきたい。

(委員)

15 ページにも「サステイナブル」と大きな縦文字が入っているので、そちらにも説明を入れていただけたら、より一層伝わると思う。

(委員)

パブリックコメントに出す資料は、序論及び基本構想と基本計画のパブリックコメント用と書いてあるのはわかるが、分野別計画も全部載せるということか。

(事務局)

はい。序論及び基本構想、基本計画、それから分野別計画の 3 点をセットでパブリックコメントに図りたい。

(委員)

分野別計画の交通安全のところ、運転免許自主返納制度の活用を促進するとある。高齢者の交通事故が非常に多く、促進することは良いことで問題ないが、返納してしまうと不便になるため、不便になったときの対応を考える必要がある。

(委員)

高齢者の問題については、第2部会で話し合った。自動運転や市コミュニティバスの整備などを進め、同時に買い物しやすいまちづくりやコミュニティの問題など、様々なことに関わってくる。

先ほどの「サステイナブル」について、将来都市像は「いつまでも住み続けたい サステイナブル健康都市おおぶ」で決定なのか。

(事務局)

運転免許の自主返納制度の活用促進で、高齢者に対する代替的なものをどう考えていくのかについては、例えば、9ページの高齢者の地域参加のところや、41ページの利便性の高い公共交通ネットワークの形成のところ、特に、自動運転・ICTを活用した配車デマンドサービスなど新たなサービスを研究し、民間事業者の参入を視野に入れた取り組みを進めていきたい。自主返納だけでそれ以外に何もしないのではなく、横断的に対応していけたらと考えている。

(委員)

返納することによっていろんな課題が出てくる。そういう課題についても対応があると良い。

(事務局)

24ページの4番のところについて、パブリックコメントの実施期間中に体裁を修正し、来月の審議会で再度お示しさせていただく。

(会長)

公共交通あるいは自主返納の話は、自主返納を促す一方で、公共交通をどう充実させていくのか、一つの部分を見るだけではなく、他とどう組み合わせていくかが総合計画のポイントであるので、そのあたりを引き続き検討いただきたい。

(委員)

将来都市像の「サステイナブル」という言葉はとても良い言葉だが、持続ということで、いつまでも住み続けたいと重なっている気がする。それと、言葉の中にもっと夢のあることが何かなかったのか。この言葉で決定なのか、確認したい。

(事務局)

いつまでも住み続けたい、健康都市おおぶと言ったところで、「サステイナブル健康都市おおぶ」を1つの単語としている。いつまでも住み続けたいというのは、市民意識調査の結果にもあるが、住みよさや住み続けたいという定住志向が高いことが大府市の自慢できるブランドとなっていると認識しており、そういったところを今後も市民と共感していきたい。

「サステイナブル」は持続可能性と言ったところであるが、それは、まず市民がいつまでも住み続けたいと思えるような、そして、今のまま現状維持ではなく、人口が 10 万人になっても、しっかり需要と供給のバランスのとれた都市として発展していく、発展しながら改善しながらという意味合いの持続可能な健康都市を目指していきたい。それから、SDGs の考え方もここに重ね合わせている。

(委員)

確認だが、「サステイナブル」と「いつまでも住み続けたい」という話は、意味が違うような気がする。「サステイナブル」の本来の意味は持続可能で、それがそのままの状態で繰り返されて持続していくという意味であり、「住み続けたい」とは違うような気がするが、そういう解釈でよろしいのか確認したい。

(事務局)

「いつまでも住み続けたい」は、市民の方々の思いとしてまず持っている部分、「サステイナブル」は、持続可能という意味合いだけではなく、ある説によると「優しさ」といった意味合いも持ち合わせている部分もあるため、そういうまちづくりを進めていく上での発展かつ持続性を持った「健康都市おおぶ」といった意味合いを持たせている。そのため、「いつまでも住み続けたい」が「サステイナブル」と意味が違うということは、前段が市民の感覚でそうあってほしいこと、後段はそういった都市を目指していくところで、意味は違っていて良いと思う。

(会長)

前半は、住み続けたいという市民の思い、これを踏まえて、後半は 10 年先の持続可能な健康都市を目指すという思いをかけていると思う。この健康都市は、ヘルシーに限らず、ひとの健康、くらしの健康、まちの健康、みらいの健康の 4 つをしっかりと反映していると思う。

ここで大府市があえて「サステイナブル」という言葉を入れた背景には、まちの発展を目指しつつも、まちそのものの持続可能性を高めていくという思いも込めていると思う。

(委員)

基本計画の 3 ページの大府市の地図について、住宅系市街地ゾーンの中に商業施設や買い物の利便性を高める記載がない。お年寄りは、免許証返納のこともあり買い物難民になっている。車に乗れる間は良いが、乗れなくなったら買い物に行けない、駅前に行くのも 20～30 分もかかる。今の表現では住宅地には緑や景観に配慮して健康づくりに寄与するといった記載しかないので、買い物しやすさといったことも加味して住みやすい住宅市街地をつくるイメージが伝わる文章にしたい。

(事務局)

土地利用計画を含む基本計画は、基本構想と分野別計画のつながりの部分であり、分野別計画も含めて基本計画になるが、分野別計画の説明や基本

的な考え方を記している。交通利便性や買い物利便性のことについては、土地利用のところに書くのではなく、例えば、A 3 資料の分野別計画の 38 ページ、主な取組 1 の 4 番目に買い物利便性の向上について記載している。具体的な取組の方向性は、この分野別計画で謳わせていただき、基本計画の見出しの部分になる土地利用では、その土地利用目的に準じた書き方になっている。

(会長)

本日予定していた議事は、すべて終了ということになる。進行を事務局にお返しする。

(3) その他

- ・今後の予定について説明。

閉会